

教育センターだより

平成29年度 第2号

黒部市教育センター

新しい学習指導要領についての理解の薦め

黒部市小学校長会 会長 宮崎新悟

平成20年の改訂から、およそ10年が経過しました。中央教育審議会答申（平成28年12月）にも示されたように、この間、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバルといった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展するようになっていきます。とりわけ、最近では、人工知能（AI）が飛躍的な進歩を遂げ、今後の社会や生活を大きく変えていくとの予測もされています。一方で、人工知能がどれだけ進化し、思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりすることができるのは、人間の最も大きな強みであることが再認識されているところです。

このような状況の中で今年3月に公示された新しい学習指導要領は、今後10年間を見据えながら、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するとともに、社会に開かれた教育課程を重視すること、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を三つの柱で明確にすること、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進すること、各学校におけるカリキュラムマネジメントを推進することなどの基本方針に基づき改訂が行われています。これらの基本方針について詳細に述べることは控えますが、道徳の特別の教科化や小学校高学年における外国語科の新設などを含めて大きな改訂と言えると思います。

さて、新しい学習指導要領で学ぶ子供たちは、これから、どのような未来を切り拓いていくのでしょうか。ある企業が「将来なりたい職業」を聞いたところ、男子中学生では1位が「ITエンジニア・プログラマー」、2位は「ゲームクリエイター」、3位は「YouTuberなどの動画投稿者」だそうです。今後、どんな職業が生まれ、生活はどのように変化していくのか想像もつきませんが、例えば、自家用車は自動運転が主流になっているかもしれない等、考えただけでもわくわくします。

新しい学習指導要領は移行措置を経て、小学校では平成32年度より、中学校では平成33年度より全面実施されることとなります。教師の働き方改革が叫ばれる中で益々多忙になるのではないか、道徳科の授業や評価はどうすればよいか、外国語科の新設で増えた35時間の授業時数をどのように確保すればよいかなど、課題も多く聞かれます。それらの課題に対応することはもちろん大切ですが、子供たちを指導する私たち教師が、新しい学習指導要領の改訂点や内容について理解することも大切です。

今回の改訂は、各教科の目標や内容などが比較的統一を図りながら示されているという特徴があります。そこで、欲張らずに、まずは、自分の専門教科や得意とする教科の窓口から読み深めることをお勧めします。すでに、文科省のホームページに掲載され、また、近々冊子として販売される各教科の学習指導要領解説を参考にするとよいでしょう。余談ですが、各教科の解説書は、現行のものよりもかなりページ数が増えています！



市内小中学校に着任された 初任の先生方を紹介します。

「子供と共に成長する」

たかせ小学校 高嶋 未央

4月から小学校教諭としての新しい生活が始まりました。毎日、周りの先生方に助けていただき、笑顔いっぱいの子供たちと過ごせることに感謝しています。3年生の子供たちは、素直で明るく、何事にも全力で取り組みます。子供たちの努力する姿や達成できたときのうれしそうな表情を見ていると、喜びとともに、もっと一人ひとりの可能性やよさを引き出せる教師になりたいと強く感じます。

子供たちと共に学び、成長できる教師になれるよう努力していきます。

「子供たちから学んだ5か月間」

石田小学校 井田 百合

日々、子供たちの元気な歌声や明るい笑顔、生き生きと活動に取り組む姿等からたくさんの元気をもらっています。子供たちの考えや発言をうまく生かせなかったり、あの言葉、言い方でよかったのだろうかと思ったりすることもありましたが、子供の姿から自分の指導を振り返るよう心掛けてきました。

誰もが無限の可能性をもっています。すぐに子供の成長が見えなくても、子供を信じ、子供から学び、根気強く関わっていきたいと思います。

「教師としてのやりがい」

中央小学校 戸倉 朋子

幼い頃から目指してきた教師という職に就いて5か月。できないことや分からないことを周りの先生方に教えて頂きながら、ようやく日々の流れについていけるようになってきました。友達に優しく接したり、苦手なことにも諦めずに挑戦したりする子供たちの姿からパワーをもらうとともに、そんな子供たちの成長を支え、見守っていく責任の大きさも感じています。

「若いのちの芽」を育てる使命を胸に、正面から子供と向き合い、授業づくりや学級運営に努めていきます。

「笑顔の源」

中央小学校 池原 円

私の笑顔の源は、4年1組27人の児童です。「昨日の夜、恐竜の絵を描いたんだ」と誇らしげに見せてくる男の子や、「先生、ここ分からないから教えてください」と話しかけてくる女の子、プールで25mを泳ぎきって友達と一緒に喜ぶ男の子。そんな児童と関わっていると自然と笑顔になれて、今日も27人のために頑張ろうと前向きになります。

これからも、児童の明るい笑顔が見られるように、日々努力したいと思っています。

「子供と共に」

桜井小学校 岡本真理子

桜井小学校に着任して5か月が経とうとしています。1学期はとにかく目の前のことを一生懸命頑張ってきました。時には辛いこともありましたが、乗り越えることができたのは、未熟な私を支えてくださる方々のおかげと、やはり子供たちの存在が大きかったように思います。日々、成長していく子供たちを見て、私も成長していきたいという思いをもつことができました。大人になってもこのように思えるというのは本当にありがたいことだと感じています。

2学期からも、子供と共に成長してける先生でありたいです。

「1学期を終えて」

荻生小学校 板本 雄太

荻生小に勤務してあっという間に1学期が終了しました。1学期の間は何が何だか分からないまま、子供たちと一緒に活動し、子供たちに教えられ、周りの先生方にたくさん助けをいただきながら駆け抜けるように過ごしました。学んだことや楽しかったことが多い反面、しっかりと子供一人一人の姿を見ることができていただろうかと反省するところも多くあります。

2学期は「余裕をもつ」ことを目標として、子供たちの成長一つ一つに目を向け立ち止まって認めながら、自分も一緒に成長していきたいと思っています。

「笑顔を忘れず」

宇奈月小学校 高森奈津樹

臨任や非常勤の講師を経て、ようやく新規採用となり、5か月が経ちました。「教員」という仕事を諦めかけた時期もありましたが、周囲の友人や講師をしていたときの子供たちのことを思い、頑張ることができました。今は、私にとって忙しい毎日ではありますが、とても充実した日々を送っていることに心から感謝しています。毎日出会う子供たちの笑顔、会話、学習、どれも楽しく、うれしいことばかりです。

これからも楽しい日々を送ることができるよう、笑顔を忘れず、子供たちに向き合っていきたいと思っています。

「子供たちとの関わりの中で」

宇奈月小学校 津幡 洋子

養護教諭としての生活も、あっという間に5か月が過ぎました。慣れない環境で一人職ということもあり、分からないことや戸惑うことも多くありましたが、周りの先生方に支えていただきながら充実した毎日を過ごしています。保健室等で子供たちと関わる中で、ただ救急処置をするだけでなく、子供たちの思いを受け止めることの大切さを感じました。

これからも子供たち一人一人の気持ちを大切に、心身の健康をサポートしていきたいです。

「出会いを大切に」

鷹施中学校 中村 優介

春に鷹施中学校に赴任して数か月が経ちました。その中で私にとって1番の転機は、多くの人と出会えたことです。生徒や同僚の先生、保護者や地域の方など短期間の中で様々な人と接することができました。特に生徒からよい刺激を受け、充実した日々を過ごしています。

生徒にとっても先生と出会えてよかったと感じてもらえるよう、様々な活動において一所懸命取り組んでいきたいと思っています。

「あっという間の1学期」

桜井中学校 長谷悠太郎

1学期を振り返ると、本当にあっという間に終わったという感覚でした。生徒は本当にかわいらしく、いつでも「先生！」と元気に話しかけてきてくれたり、授業中には元気に手を挙げて発表してくれたりしました。そのおかげで、楽しく学校生活を送ることができました。

しかし、他の先生方にはいつも助けてもらってばかりだったので、2学期からは教えていただいたことを踏まえて教師として成長し、生徒の充実した学校生活のために努力を続けていきたいと思っています。



周囲の人とつながり、自己有用感を育む体験活動

黒部市立生地小学校

「私たち生地小学校では、春に4年生、夏に5、6年生が名水公園の掃除をしています。今年も8月の名水祭りの前に、掃除をしました。水がとても冷たく、足がすぐに冷たくなりましたが、みんなでがんばってデッキブラシでこすりました。名水祭りに来る地元の人や観光客の方々に、楽しく、気持ちよく過ごしてもらいたいと思いながら取り組みました。(中略)きれいになった公園を眺めると、やり終えたぞという達成感が生まれました。ここを訪れる人も、涼しい思いをしてくれるかなと思いました。これからも、みんなが安らげる公園であってほしいです。」

これは、名水公園を清掃した6年生の作文です。子供たちの清掃活動は、地域住民が気持ちよく生活できるばかりでなく、「生地まち歩き」や「名水祭り」で訪れる観光客にとっても、清々しい気持ちでまち巡りできることに貢献しています。そして何よりも子供たちの心に「豊かできれいな環境を守っていこう」という意識が育っていることをうれしく感じます。



本校では、「おもいやり運動」を合言葉にしたボランティア活動を推進しています。

お：大きな声で挨拶をしよう ～相手を意識した「あいさつ運動」～

毎朝元気に「おはようございます」という声が学校の中に響いています。遠くから大きな声で挨拶をする子、目を合わせてにっこり挨拶をする子…。一人一人の挨拶の仕方は違いますが、挨拶は一日のエネルギーをたくわえる魔法の言葉です。自分も相手もよい気持ちにする、本物の心のこもった挨拶ができる挨拶名人が育っています。

も：ものを大切にしよう ～PTA愛校ボランティア活動～

年2回PTA活動の一環として、愛校ボランティアを行っています。学校の一員として、みんなで学校をきれいにし、学習環境を整えることで、物を大切にする心が育まれると考えます。去年は、大好きな体育室がきれいになるようにと、親子で壁板の落書き落としに取り組みました。

い：生地の町をきれいにしよう ～「しお風クリーン」～

名水公園の清掃に加えて、水曜の朝に隔週で取り組んでいる「潮風クリーン」も生地の町をきれいにする活動の一つです。朝、通学路のごみを拾ってくるこの活動は、ボランティア活動推進校の指定をきっかけにして、平成4年度に始まりました。地域の交通指導員の方も、安全のための目配りや声かけを行ってくださり、家庭と地域、学校が連携した伝統ある活動となっています。



や：やさしい心をもとう ～学年の枠を超えた温かい交流「フレンドリーデー」～

大休時に給食の縦割りグループで、ドッジボールやフルーツバスケット、椅子取りゲーム等をして1年生から6年生までが入り混じって楽しんでいます。それがきっかけとなり、昼休みもグラウンドで一緒に遊ぶ姿が見られます。低学年の子供たちが「ねえ、昼休みに遊んでね」とにこにこしながら話しかけています。上級生が下級生の子供たちをかわいがったり優しく接したりする姿が見られます。異年齢の活動を通して、学年の枠を超えた温かい交流が生まれています。

り：リサイクルを進めよう ～アルミ缶回収～

整美委員会が中心となり「しお風クリーン」と交互に「アルミ缶回収」にも取り組んでいます。子供たちだけでなく、地域に住んでおられる方々も協力してアルミ缶を持ってきてくださり、地域に浸透している活動であることを改めて実感します。

これらの活動に取り組む子供たちの姿を、日々の活動の中で伝えたり、学校・学年便り、HPで紹介したりすることを通して、賞賛し認めていきたいと考えています。本校の伝統ある「おもいやり運動」に誇りを持ち、「自分は役に立っている」「人とつながることが好き」という生地っ子が増えることを願っています。

〈特色ある教育活動の紹介〉

地域のよさを認め合う ―豊かな心の育成を図る取組―

黒部市立桜井小学校

本校は、開校2年目を迎えた。今年度は、「夢に向かって進む 桜井小学校」をキャッチフレーズに、温かい人間関係・共感的な人間関係の中で豊かな心を育成することを目指している。そのために、「前沢地区・三日市地区における文化や伝統、風習のそれぞれのよさ」を認め合いながら、共に支え合うことのできる活動に取り組んでいる。

心の花を咲かせよう ―前沢カンナロード植栽事業を通して―

前沢校区には、「前沢カンナロード」と名付けられた道路がある。毎年、地域ぐるみでカンナ植栽事業に取り組み、約半年間にわたり地域に親しまれている道路になっている。この事業には、長年、旧前沢小学校が参加協力してきたが、引き続き、桜井小学校PTA活動に位置付け、4～6年の児童及び保護者が関わることになった。

本年度の定植は5月7日に実施され、好天の中100名以上の親子と教職員が参加した。そして、「花壇の草むしりをする」「芽が上向きになるようにカンナの球根を植える」「カンナとカンナの間に、花苗を植える」など、一連の作業を行う中でさわやかな汗を流した。



真っ赤なカンナがきれいに咲くためには、花壇の手入れが必要である。そこで、4年から6年までの子供たちが、6月・7月にかけて、花壇の除草を行った。子供たちはカンナが少しずつ大きく成長している様子を目の当たりにし、一生懸命に除草に取り組んだ。暑い日差しの中で、もくもくと除草する子供たちの姿からは、「自分たちの地域をきれいにしよう」「すてきなカンナロードにして、地域の人に喜んでもらおう」という気持ちが伝わってきた。今後も継続して取り組むことによって、地域への愛着が育まれるように努めていきたい。

百年桜の大きさに感動！ ―三日市まちなめぐりを通して―

三日市地区には、多くの黒部市指定文化財がある。そこで、3年生が総合的な学習の時間における「桜井小校区のすてきなものを見つけよう」の学習の中で、「三日市まちなめぐり」を行った。まちなかガイドの方々に案内をしていただきながら、「旧三日市小学校跡にある百年桜」「三本柿・親鸞聖人聖蹟地」「旧加賀藩御宿・島家」「旧北陸街道の道しるべ」「佐野源左衛門尉常世の遺跡碑」を訪れた。

子供たちは事前に調べ学習を行っていたが、まちなかガイドの方々の説明を聞いたり、本物の文化財を見たりすることによって、様々な感想をもった。「三日市には昔からあるものがたくさんあって、びっくりした」「百年桜の根っこが太くて長い」「佐野源左衛門さんの話が好きになった」「110年前のソメイヨシノや800年前の三本柿は、戦争などがあったのによく残っているな」「桜井小学校の校章が桜井の荘という意味を初めて知った」など。



このように、地域の方の語りから地域を学ぶことによって、子供たちは普段何気なく見ている地域に対して興味・関心をもち始めた。今後、地域の方と触れ合える場をさらに設定し、「もっと地域を知りたい」「桜井小校区の歴史を守りたい」という意欲を高めていきたい。

現在、本校の中庭には「二代目百年桜」があり、花壇には真っ赤なカンナが咲いている。前沢地区・三日市地区を代表する花を大切に育む中で、それぞれの地域のよさを受け継いでいく活動に継続して取り組み、豊かな心の育成に努めていきたい。

夏 季 研 修 会 を 終 え て

【学級運営研修会】 <7/25、宇奈月小学校、65名参加（市外から21名参加）>

若手教員向けの学級運営研修会を開催しました。
上越教育大学の 赤坂真二 先生をお招きし、「学級集団を育てる教師のリーダーシップ」という演題で講演していただきました。

学級運営の温かいルール作りや協働的問題解決力の大切さ、子供のやる気を引き出す方法等についてお話ししていただきました。

参加者からは、「1番大切なのは教師の心だと思った」「信頼関係が大切だと改めて感じた」「子供の話をもっとたくさん聞いていきたいと思った」等の感想があり、今後の学級運営の道しるべとなったようです。



【教科実技研修会（道徳科）】 <7/28、市教セ、35名参加>



小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から全面実施となる「特別の教科 道徳」についての研修会を開催しました。東部教育事務所から指導主事の 大坂由喜子 先生をお招きし、道徳科の指導や評価についてお話を聴いたり、実際に中心発問等を考える演習を行いました。

参加者からは、「実際に発問を考え、みんなでシェアできたことが印象的でした」「『考え、議論する』道徳の具体がイメージできました。先が見えてきたような気がしました」等の感想があり、道徳科への

不安が少し軽減されたようです。

【外国語活動に関する講演会】 <7/31、うるおい館、86名参加（黒部市は32名参加）>

魚津地区教育センター協議会の協業事業の1つ、外国語活動に関する講演会を開催しました。文教大学の 金森 強 先生をお招きし、「新学習指導要領に応じた英語指導の在り方」という演題で講演していただきました。

反復練習で覚えさせるだけの指導ではなく、相手のことを意識して、自分の気持ちを伝えようとする事が大切であると、ユーモアたっぷりに力説しておられました。

参加者からは、「英語という枠ではなく、相手と話す、伝えることの大切さについて考えさせられました」「私の『子供の心に火をつけたい』という心に火をつけてもらいました」「外国語活動だけでなく、全授業に通じることを教えていただきました」等の感想があり、先生方のやる気を起こさせる講演会となりました。



【情報教育実技研修会（プログラミング教育）】<8/1、市教セ、15名参加>

小学校で必修化されるプログラミング教育についての研修会を開催しました。東部教育事務所から指導主事の 小田仁洋 先生をお招きし、各小中学校の情報教育研究委員の先生方に参加していただきました。

オーロラクロック等の教材を使いながら実際にプログラミングを体験し、論理的思考を育てるプログラミング教育について研修しました。

参加者からは、「プログラミング教育の具体例について知ることができ、とても参考になりました」「実践的な活動をしなが研修を進めたことで、理解しやすかったです」等の感想がありました。各校で、参加者（情報教育研究委員）による研修会（伝達講習会）が行われることを期待しています。



【中堅教員研修会】<8/4、市教セ、13名参加>



「学校統合への準備」に関する事例研修を行いました。ブレインライティングによる演習で、様々な問題点や対策をグループごとに話し合い、ホワイトボードにまとめました。

指導講話では、東部教育事務所から主任指導主事の上野郁行 先生をお招きし、ミドルリーダーとして学校運営に参画する必要性や後輩指導への期待等をお話いただきました。

参加者からは、「自分はまだまだ若手だと思っていたが、中堅であるということ意識していきたい」

「事例研修という機会をいただいたことで、学校としてどう動いていくか、自分なら何ができるかを、具体的に考えることができた」「自分の視点の持ち方を広げていかなくはならない時期にきていると感じました」「教頭先生から、自分たちだけでは出てこない視点についてアドバイスをいただけたのでよかった」等の感想があり、中堅教員としての自覚が高まっていたようです。

【特別支援教育に関する研修会】<8/7、市教セ、26名参加>

東部教育事務所から小中学校巡回指導員の 瀧脇真紀 先生をお招きし、「通常の学級における合理的配慮について」の研修会を開催しました。

合理的配慮の定義等についてお話を聴いたり、必要とする人、必要な場面等について協議しました。その後、タブレット操作が必要な生徒の映像を視聴し、他の生徒への納得できる説明等を考えました。

参加者からは、「障害は社会の中にあるという言葉が印象に残った」「合理的配慮について、具体の姿が分かり勉強になった」「子供一人一人にそれぞれの困り感があるという目をもって、子供たちを見ていきたい」等の感想があり、児童生徒理解や合意形成の重要性を、改めて感じているようでした。





英語サマーキャンプ

English Summer Camp



8月16日(水)から18日(金)まで、黒部市ふれあい交流館「あこやへの」で英語サマーキャンプを行いました。小学5・6年生40名と中学1年生12名の計52名が参加しました。指導者として、ALTや英会話講師の他に桜井高校英会話部の生徒も参加してくれました。

2泊3日の活動内容を簡単に紹介します。



< 1日目 > ALTインタビュー、スポーツタイム、キャンプファイヤー

- ・ALTインタビューは、子供たちがALTに少なくとも1回は質問するような活動で、主体的に英語で会話をする事につながりました。
- ・スポーツタイムでは、キャプチャー・ザ・フラッグ（旗を取り合う鬼ごっこ型ゲーム）を行い、自然に英語で声をかけ合う姿が多く見られました。
- ・キャンプファイヤーではアイドルコンテストを行いました。アイドル役のALTの話を類推しながら聞き、誰がよいと感じたか、言葉や拍手で思いを表していました。

< 2日目 > バーベキュー、英語ワークショップ（フレスレット作り等）

- ・バーベキューでは、ファヒタを作りました。また、スイカ割りを行い、目隠しをしたALTに、英語で指示を出しながら楽しみました。ファヒタを作った場面では「初めて食べる味で美味しかった」「お肉やソースなどの具材を替えるだけで味が変わって楽しい」など、食文化の違いを感じながら活動を楽しんだ様子が子供たちの感想からも伝わってきました。
- ・英語ワークショップでは、フレスレットの作り方の説明や材料の受け渡しで英語を使うことが必須で、必要感に迫られて、多くの発話が行われていました。作品は家に持ち帰って家族に見せることもでき、保護者に活動内容を知らせる一助となりました。



< 3日目 > プレゼンテーション（英語劇）

- ・プレゼンテーションの内容は、昨年同様、みんながよく知っている昔話等をアレンジした英語劇でした。物語の内容をふまえて、英語のセリフを話したり、表現方法を工夫したりしていました。参観している子供や保護者は、分からない英語の部分を想像しながら類推して楽しんでいました。

新ALTの紹介

ペニエル・ハギンス
(Penniel Huggins)

こんにちは。私はアメリカのテネシー州ジョンソンシティから来ました。私の両親はトリニダード・トバコというカリブの美しい島国の出身です。私は武道が大好きでカポエイラというブラジルの格闘技を9年間続けています。

黒部で働けることになり、光栄です。よろしくお願いします。

